



### 家で看取ることの 社会的意義

先日、日本在宅医学会に参加しました。特に印象深かったテーマは、病院と在宅医療との連携についてです。

セッションでは、中堅病院医師の理解が進ま



**松原 清二** 医師  
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
総合内科専門医・循環器内科医  
・日本循環器学会専門医  
・日本内科学会認定医  
・認知症サポート医

ないため、在宅医療が進みにくいことが挙げられました。患者さんが「最期は家」を希望していても、その希望通りにいかないことがあるのではないか。これは私も実感していることです。

西日本で一番在宅で終末期医療、緩和医療を行なっているという在宅医が、終末期医療を通して命の大切さを患者家族に感じてほしい。中学校でも命の授業をしているが、い

つも命の尊さを理解してほしいと願っている話しており、共感しました。私自身も同じ気持ちで診療に取り組んでいます。終末期になると患者さんは寝たきりとなり、食欲低下、全身のけだるさ、痛みなども出現します。お元気がなくなった頃とは姿もまるで変わります。家族はおむつの交換をしたり、少しでも何かを食べてもらおうと模索して、大変な日々を過ごすこととなります。

ですが、家で最期まで過ごしたいという患者さんの想い、そして、それを叶えるために頑張るご家族の姿勢や想いは、まさに生命の尊さの表現です。大切な人が亡くなるこ

【まつばらホームクリニック】  
**☎ 042-439-1250**  
西東京市東町 4-14-18-2F  
(訪問中のため不在が多い)  
■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00  
■定休日 : 土日 (祝日は診療)  
■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック